

住民参加型土砂災害危険度マップ作成

諏訪市有賀の取り組み紹介

千葉の国際学会の松澤さん（深田地質研究所）が発表



現地調査や土砂災害危険度マップ作成に参加した地域住民ら＝2018年8月30日（松澤さん提供）

は9溪流の206地点で電磁波探査などにより土壌データを抽出。土石流災害シミュレーションのマップを作成した。現地調査や土砂災害危険度マップの作成には地域住民も参加した。

世界中から地球惑星科学の研究者や学生が集う国際学会「日本地球惑星科学連合2022年大会」（6月1日、千葉県幕張メッセ）で、「長野県諏訪市有賀地区における住民参加型の土砂災害危険度マップ作成の試み」が発表された。発表者で深田地質研究所（東京都）主任研究員の松澤真さん（38）は、「地域の土砂災害の危険性の理解促進に貢献できた」と話している。

有賀地区に隣接する岡谷市湊の小田井沢川では2006年の豪雨で土石流が発生し、死者7人の人的被害が出た。有賀地区には土石流の恐れがある9溪流があり、松澤さん

マップを基に住民説明会も行い、住民から「長期的に見て安全な場所がないことが良く理解できた」「各沢での危険度を理解するために土石流シミュレーションが必要だと感じた」「どのように避難するかを考えることが大きな課題」などの意見があったという。

（後藤八十晴）